

課題

- 府内の小中学校ともに、不読率が全国平均を上回っている。
- 小中学校ともに言語能力・情報活用能力の育成が必要。
- 学校図書館の環境整備・授業での活用が進んでいない。

事業のねらい

学校図書館を活用した授業を行うことで、情報活用能力・言語能力の育成を図る。事業実施校には、学校図書館活用に造詣の深いスーパーバイザーを派遣し、授業づくりや環境整備に向けた指導助言を行うとともに、事業実施校の取組みを広く普及させ、府域の学校図書館の機能の充実をめざす。

取組実施地域・学校の指定

吹田市、高槻市、茨木市、守口市、大東市、東大阪市、八尾市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、和泉市、高石市、岸和田市、貝塚市
【14市】
小学校11校 中学校5校

実施内容

【大阪府の取組み】

- 大阪府独自の情報活用能力体系表の作成
- 事業実施校に担当教員を配置
- 事業実施校へスーパーバイザーを派遣
- 事業実施校への指導助言

【市町村の取組み】

- 事業実施校の選定・成果普及計画等の設定
- 事業実施校の進捗管理及び訪問支援
- 事業実施校の公開授業及び校内研修支援

【事業実施校の取組み】

- 言語能力・情報活用能力の育成に向けた学校図書館を活用した授業実践
- 公開授業、校内研究の推進
- 学校図書館を活用した実践事例の作成



【研究成果の周知】

- フォーラムによる分科会の実施
(オンデマンド形式と集合型によるハイブリッド実施)
- 事業実施校の取組を府教育庁HPにWEBアップ
- 協力校への学校公開参加者 430名



事業実施校の実践を参考に学校図書館を活用した授業づくりを府域内へ広く普及・発信
動画視聴回数 219回
フォーラム参加 228名

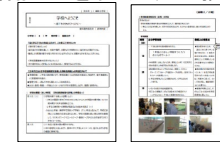
成果

【児童生徒アンケート】 (小・中学校)

	令和5年 5月(%)	令和5年 12月(%)
わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネットなどで調べている	80.9	84.6 3.7ポイント↑
本やインターネットなどで調べたことをもとに、自分の考えをまとめて書いたり、話したりしている	57.7	65.4 7.7ポイント↑
学校図書館での学習や、本や資料を使って調べることは楽しい	62.1	71.3 9.2ポイント↑

【令和5年度学校図書館活用授業単元数】 (授業モデル、令和5年2月時点)

合計 小学校193事例 中学校104事例
○学校図書館活用授業の実践事例を府域へ発信、さまざまな教科等で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた言語能力を育成する授業づくりを普及。



参考: 学校図書館を活用した授業実践例
(大阪府教育庁HP)
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/gakkoutosyokan/index.html>

【大阪府情報活用能力ステップシート】

○大阪府として、義務教育9年間を見据えた情報活用能力の育成を府域全体で行っていくため学校図書館活用及びICT活用に必要なスキルを1つの体系表にまとめた大阪府独自の「情報活用能力体系表」を作成し、府HPで公開するとともに冊子として各校に配付。



課題

○小学校から中学校に進むに従い、読書離れが顕著になっており、小学生期の読書習慣の定着が課題

○本県は図書館設置率が全国平均より低く、読書環境の面においてこどもが読書活動を行う上での課題

事業のねらい

(1) 小学校の給食時間での朗読放送や通学合宿・公民館でのよみきかせ及び関連図書の設置を実施することで読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。

(2) 学童保育所や登校に不安を抱えるこどもに対して本を介したコミュニケーションを取り、小学校低学年及び中学年における読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。

(3) 上記の取組に対し県が設置する企画運営委員会内で助言等や県立図書館から図書貸出の支援を行うことで、人材や、蔵書量に課題を抱える自治体での取組の参考になるよう検討を行う。

実施内容

① ボランティアによるよみきかせの取組

(かつらぎ町へ再委託)



【取組内容】

かつらぎ町内の小学校
(5校 713名)

【取組内容】

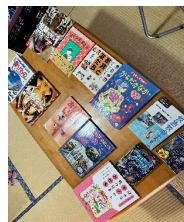
小学校の給食時間での、朗読録音CD、ライブ朗読の放送や通学合宿、公民館でのよみきかせにより、こどもたちの読書への興味を誘った。同時に朗読図書を含む関連図書を学校へ貸し出し、読書につなげた。

② 学童保育所や登校に不安を抱えるこどもへの取組

(那智勝浦町へ再委託)

【対象】

那智勝浦町内の学童保育所5か所
(小学校1～4年生約50名)
登校に不安を抱えるこども
で青少年センターの学習指導に通
う児童・生徒10名を訪問



【取組内容】

個々の興味関心を聞き取り、書籍・電子書籍の紹介を行うことでコミュニケーションを図り、読書を促した。

③ 取組への助言や図書貸出の支援

(和歌山県が実施)

上記、2町での再委託事業に対する助言を行った。不足する図書についても県立図書館から貸出を行った。

成果・課題

【成果】

(ボランティアによるよみきかせの取組)
朗読放送の実施後に関連図書を手に取る児童が多く見られたことから、読書のきっかけづくりとして一定の効果は確認できた。

(学童保育所での取組)

こどもが飽きないよう月に1回の訪問時に図書を入れ替えた。低学年のこどもも楽しめるよう選書を工夫し、よみきかせも併せて行うことで読書への興味を持たせた。

(登校に不安を抱えるこどもへの取組)

こどもだけでなく保護者も一緒に楽しめる図書を選書することで、図書がこどもと大人(保護者や支援員)のコミュニケーションの架け橋となった。

【課題】

(ボランティアによるよみきかせの取組)

図書館利用者の増加や読書冊数の増加等といった数字での効果は現れにくい、読書への興味定着化を図るためにこどもが集まる場を新たに開拓し、継続してよみきかせの取組を行うことが必要である。

(学童保育所での取組)

学童保育所内では一定の効果があったが、家庭での読書習慣定着には至っていないので、その部分を補う新たな取組が必要である。

課題

- 学校段階が進むにつれて、子どもの読書離れ
- 学校司書、図書館司書との連携

事業のねらい

学校・家庭・地域が連携して子どもの読書活動を推進し、乳幼児期から思春期に至るまでの発達段階に応じて切れ目のない読書活動を推進することにより、生涯にわたる望ましい読書習慣の形成を目指す。また、学校司書、図書館司書との連携を図りながら、子どもたちの読書環境の整備を推進する。

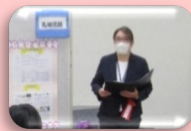
企画運営委員会

- 第1回6月23日
第2回2月7日
- 不読率の低減に向けた読書活動推進事業
 - 学校司書、図書館司書との連携の在り方
 - 子供の発達段階に応じた読書活動推進事業
 - 事業の成果についての評価、検証、分析



ポスターセッション・総括

- 【乳幼児期】～「遊び」を取り入れた空間作り～
平田村立ひらたこども園 主任保育教諭 桑原 真希 氏
- 【小学校期】～授業とのつながり・読み聞かせ～
郡山市立富田東小学校 学校司書 遠藤 広美 氏
- 【中高校期】～「直接的アプローチ」「間接的アプローチ」～
福島県立会津西陵高等学校 主任学校司書 阿部 多喜子 氏
- 【図書館・読書ボランティア】～読書の町づくり～
矢祭もったいない図書館 館長 緑川 宏子 氏
- 【ポスターセッションの総括】～子どもを取り巻く読書環境～
福島大学 名誉教授 高野 保夫 氏



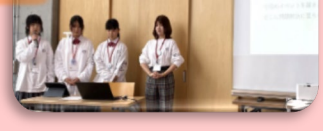
講演

「乳幼児期から高校期までの切れ目の無い読書活動のために」

学習院大学文学部教育学科 教授 秋田 喜代美 氏



「発達段階に応じた読書研修会」



体験・演習

「読書の町を体験しよう ～読書×〇〇で何がうまれるのか～」

【ユール矢祭】

もったいない文庫、本の交換スタンド、ワークショップ開催の展示

【もったいない図書館】

図書館・キャラバンカー見学、手作り絵本コンクール作品の展示

【矢祭小学校】

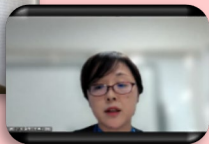
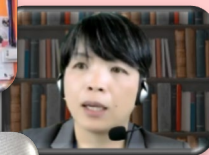
図書館（メディアセンター）見学、子ども司書、としよ部の紹介

参加者の声

- 生涯にわたって読む喜びを味わえるように、子どもと良質の本との出会いを支えていくこと、そして何より、読む喜びをともに分かち合うことこそが大人の役割であると感じた。
- まずは、子どもの読書を支える者同士がコミュニケーションを充実させ、読書に対する意識を高め、共通の目的をもって取組を進めていくことで、子どもも保護者も積極的に読書に親しむと感じた。
- 家庭・地域・学校が一体となり、読書のきっかけとなる環境をつくっていくことが大切だと感じた。

「オンライン・オンデマンドによる司書等研修会」

- 【講義①】「子どもの視点に立った読書活動の在り方」
埼玉県立飯能高等学校 主任司書 湯川 康宏 氏
- 【講義②】「デジタル社会に対応した読書活動の在り方」
長野県高森町立高森北小学校・高森町子ども読書支援センター 司書 宮澤 優子 氏
- 【講義③】「多様な子どもたちの読書活動の在り方」
星槎大学特任教授・認定NPO法人エッジ会長 藤堂 栄子 氏
- 【講義④】「学校と公立図書館との連携～新潟市の事例～」
新潟市立中央図書館 新潟市学校図書館支援センター 主任 渡邊 実和 氏



成果

- 乳幼児期から思春期に至る切れ目のない読書活動について、ポスターセッション、専門的な講義、図書館や学校での体験的な演習等、様々な研修スタイルで実施し、理解を深めることができた。
- 読書環境整備について、オンライン・オンデマンドで実施し、「子どもの視点」「多様な子ども」「デジタル社会への対応」「学校と公立図書館との連携」について研修することができた。

課題

- 「朝読書」の充実を通して、昨年度まで児童生徒の読書量は着実に増加してきた。家庭での読書習慣は定着しているとはいえない。
- 平成31年度に策定した「中学校卒業までに読みたい本！」が子どもの実態に合わなくなってきた。

事業のねらい

- 小中学校だけではなく、家庭との連携を図り、さらなる読書習慣の定着ができるようにする。
- 子どもの実態に合わせた、子ども主体の「中学校卒業までに読みたい本！」を選定する。

年間3回の読書活動実行委員会の開催

藤岡市の読書活動の推進のために年3回の実行委員会を開催した。

- ①「朝読書」の成果と課題について
- ②「中学卒業までに読みたい本！」の選定について
- ③「中学卒業までに読みたい本！」の周知と活用について



実施内容

①「朝読書の提言」の共有



令和4年度に、連携型小中一貫校ごとに「朝朝読書」の充実に向けた「朝読書の提言」を改訂した。本年度は提言を基に成果と課題を話し合う機会を設けた。

②「中学卒業までに読みたい本！」の改訂

令和5年度
中学卒業までに読みたい本！15選

書名	著者	出版社/発行年
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社
あしたのちいさなこころ	岩岡千景	講談社

平成31年度に策定した各連携型小中一貫校の「中学卒業までに読みたい本！」の改訂を行った。今回の改訂では、アンケートや図書委員会の協議など児童生徒主体の選定となるよう各校で工夫してもらった。

③教職員研修の実施



『生きる力を育む「朝読書」 静寂と集中』の著者である東京新聞出版部長岩岡千景氏を講師に、令和5年度読書活動実行委員会研修を実施した。

④「家読（うちどく）メール」の送信

毎月第4土曜日を「家読の日」として、家庭での読書を啓発するため市内全保護者に「家読メール」を送付した。

成果

○1年間の成果と課題の振り返り



第3回読書活動実行委員会で、本年度の成果と課題の振り返りを行った。「子ども達主体で、『中学校卒業までに読みたい本！』を選んだことで、図書館に来る児童が増えた」、「保護者からアンケートをとり保護者とも連携して本の選定ができた」といった振り返りがあった。

○「中学卒業までに読みたい本」の活用に向けて



来年度「中学校卒業までに読みたい本！」を周知、活用するために各校でビンゴカードを作ったり、リールレットを作成した連携型一貫校があった。

課題

○学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか
「全くしない」と回答した児童生徒の割合
小学校28.8%、中学校43.9%

○学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか
「ほとんど、または、全く行かない」と回答した児童生徒の割合
小学校46.6%、中学校69.3%

令和5年度全国
学力・学習状況調査より

事業のねらい

○学校図書館の各種センター機能を生かした取組を普及させることで、児童生徒の読書習慣の形成及び読書活動の推進につなげる。

○児童生徒に読書習慣や情報活用能力を身に付けさせるために、魅力ある学校図書館の図書整備体制や読書環境整備体制を構築する。

取組実施地域・学校の指定

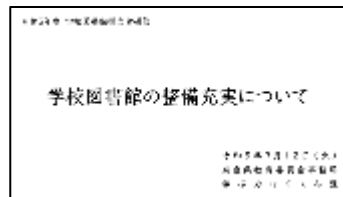
橿原市（橿原市立晩成小学校）

- 市内児童生徒の不読率
小学校29.2%、中学校46.6%
- 学校図書館の書架整理等、環境整備が不十分

実施内容

①学校図書館担当者研修

- ・指導主事による説明
- ・学識経験者による講演



オンライン配信
(参加者111名)

学校図書館の開館時間帯や公共図書館と連携した取組例、学校図書館の利用率を上げる取組等について、県内各校における取組事例を共有・展開

②指定校での実践



電子書籍を活用した全校読書



POP作成教室とビブリオバトルの紹介



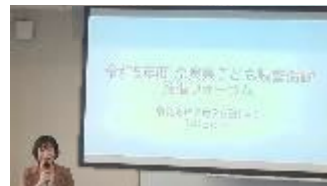
絵本かるた作成

全校一斉による電子書籍を活用した読書の時間の設定や、市立図書館との連携による出前授業等、多種多様な取組を実施

③子ども読書活動推進フォーラム

- ・指定地域による実践発表
- ・学識経験者による講演

県教育研究所への参集及びオンライン配信のハイブリット開催
(参加者72名)



学校関係者だけでなく、子どもの読書活動に関心のある方も参加

成果

○研究指定地域における成果

・「読書が好き、どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は、全6学年中5学年において増加した。

	1学期	3学期	比較
第1学年	84.3%	95.9%	+11.6
第2学年	84.9%	86.8%	+1.9
第3学年	75.5%	77.8%	+2.3
第4学年	75.5%	77.2%	+1.7
第5学年	79.1%	71.0%	-8.1
第6学年	77.1%	81.3%	+4.2

・市立図書館におけるモデル校区対象年齢児童の貸出冊数が18.8%増加した。

	2022年	2023年
貸出冊数	865冊	1028冊

※2022年及び2023年11/7～12/30の貸出冊数

○学校図書館関係者等への周知

・学校図書館担当者研修を実施し、県内各校の現状や取組を周知することにより、司書教諭及び学校司書をはじめとする学校図書館担当者の資質向上を図った。

(参加者の研修内容満足度：95.9%)

・奈良県子ども読書活動推進フォーラムにおいて、研究指定地域の取組をもとに、学校図書館の充実の意義やその取り組み方等について周知することにより、子どもの読書活動の推進に向けた雰囲気醸成を図った。

(参加者の研修内容満足度：100%)

課題・事業のねらい

- 学校図書館を活用した授業実践
全附属校で授業実践に取り組み、データベースに事例もしくはブックリストを掲載した。その中から校種の異なる2校が実践報告をした。
 - ・附属国際中等教育学校
 - ・附属特別支援学校

- 学校司書のための研修プログラムの企画・実施・効果の検証

- 『先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース』の改良と普及

- 研究成果の発表

実施内容

授業実践

- ① 附属国際中等教育学校
 - ・理科と美術科の教科横断的な学習の試み：学校図書館がつなげる学年を超えた学びの場の創出
- ② 附属特別支援学校
 - ・特別支援学校における学校図書館活用 小学部を中心に

司書研修の実施（7月25日、27日）

「学校図書館図書の購入促進」に即した研修を志向しオンラインで開催。蔵書構築とデジタルアーカイブについて学習した。

動画配信

Webサイト『学校図書館活用データベース』による情報発信および、サイトのリニューアルを実施。
<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/>

動画配信

●事業報告会の開催（12月16日）

- ・2校の授業実践校の報告および事業委員による講評 研修報告・事業委員による座談会（見逃し配信も含め約250名）

成果・課題

授業実践

- ① 異なる教科の連携は、同時期に授業をするのではなくリレー形式で行い、その際継続して図書館連携をすることで、生徒の学びの深化がみられる。
- ② 特別支援学校の児童らが有する困難さは一人ひとり違うため、教職員の側も様々な形式の図書資料に精通し、適切手渡すことが求められる。

（課題）今後は、附属学校での授業提案を公立学校で実施し、その有効性を検証したい。

司書研修

- 当日視聴：186名 見逃し配信 154名
- 「学びを支援する学校図書館をつくろう」というテーマで、アナログ編・デジタル編を実施。受講者からは高い評価を得た。今後も、タイムリーな話題と、司書が教員と一緒に参加できる研修を企画したい。

Webサイト・事業報告会

サイトのリニューアルを実施。来年は他機関との連携も視野にいれ活動予定。報告会は、今年も全国各地からの参加があった。大学生の参加も多く、教員志望者の学校図書館活用に関する理解を深めることができた。

掲載

課題

図書館利用の活性化

コロナ期間を経て、図書館利用が減少。利用の活性化のため授業サポートと生徒の主体的な図書館活動を充実が課題。

事業のねらい

- ①授業連携で図書館・電子図書館の利用を活発化。
- ②読書意欲を高める環境を充実し不読率を低減。
- ③読書・図書館を通じた生徒活躍の場の提供。

実施内容

①電子図書館を活用した授業サポートⅠ 国語「ビブリオバトル」サポート



国語の授業で【名作ビブリオバトル】開催
★電子図書館に「岩波文庫セット100冊」購入
★生徒の本紹介動画を電子図書館で配信

②電子図書館を活用した授業サポートⅡ 情報「新書」・英語「多読用洋書」の充実



電子書籍で新書・洋書購入。
長期休暇の課題資料としても活用し好評。

成果

- 授業連携で図書館の授業利用が今年の1.5倍
- 高校生の不読率が低減

年度	ビブリオバトル開催クラス	図書館授業(年間)	高校生の不読率
2022	23	380	10%
2023	37	647	5%

- ★全国高校生ビブリオバトルゲスト特別賞受賞
- ★大阪府中学生ビブリオバトル優勝
- ★教育誌EduAで生徒紹介「読書のチカラ」
<https://www.asahi.com/edua/article/15036214>

③生徒参画の図書館イベントを開催。電子図書館やHPで紹介し図書館利用をアピール

実施内容

高校生ビブリオバトル
校内代表決戦



オーケストラ部の
ミニコンサート



書道部の
ワークショップ



電子図書館で
イベント動画を
配信。
図書館のアピ
ール



課題

- 授業の際に、学校図書館を効果的に活用できていない。
- 児童の読書に対する関心に個人差があり、読書量が不足している。



事業のねらい

- 学校図書館の機能を校内研究に位置付け、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。
- 学校司書と連携し、学校図書館を効果的に活用した授業を行う。
- 児童の読書に対する関心を高め、読書量を増やす。

取組実施地域・学校の指定

米原市立坂田小学校



実施内容

①学校図書館の機能を活用した校内研究



国語科の授業の様子

国語科における実践を中心に、他教科でも学校図書館の機能を生かすという視点で授業研究会を行い、授業構想力を高めた。

②学校司書との連携（授業づくり）



担任と相談して必要な図書資料を市立図書館から収集したり、児童の資料選びを補助したりするなど、学校司書の参画で授業が充実した。

③多様な図書資料の活用



学校司書の選書による学年本棚を設置したり、学習に活用できる図書のコーナーを設置したりするなど、教師も児童も図書資料を手に取りやすくする工夫を行った。

④読書意欲向上を目指した環境づくり



教師おすすめの本を並べたり、「児童おすすめの本」を掲示したりして、児童の読書の幅が広がるように学校図書館の環境を工夫した。

成果

○学校図書館の機能を活用した授業改善

【学校評価アンケート質問項目】
 教師：子どもが自分でよく考えたり、調べたりできる工夫（取組）をしている。
 児童：自分でよく考えたり、調べたりしている。
 【肯定的回答の割合】

	児童	教師
令和4年7月	85.7%	87.1%
令和5年7月	89.2%	92.0%

授業や学習の中で、自ら調べて解決しようとする児童が増加した。

○学校司書との連携による学校図書館・授業の充実



学習成果物を学校図書館や市立図書館等に掲示した。児童は次年度の学習に見通しをもつことができた。また、学習の様子を地域へ発信することができた。

○学校図書貸出冊数（4月～12月）

令和3年度	5,728冊
令和4年度	9,132冊
令和5年度	10,530冊

課題

- 授業での学校図書館の活用が進んでおらず、生徒の主体的・協働的な学習活動の支援が不十分である。
- 生徒の読書への興味に個人差があり、読書量が不足している。



事業のねらい

- 学校司書と担任・授業担当者の連携により、学校図書館の計画的な活用を行い「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
- 生徒の読書への興味を高め、学校図書館を活用した取組を充実させる。



取組実施地域・学校の指定

米原市立大東中学校



実施内容

①学校司書と連携した授業づくり



必要な資料を市立・県立図書館から収集し、その資料をもとに、テーマにそった協働的な学びを設定した。

②「全校ビブリオバトル」の開催



自分のお気に入りの本を紹介する取組をビブリオバトルの形で行った。全校で行うことで読書への関心が高まり、的確に伝えるための表現力の向上にもつながった。

③学習センターの機能を強化



積極的に学校図書館で授業を行うことにより、学習センターの機能を強化するとともに、生徒の学校図書館利用の促進を図った。

④生徒ボランティアによる学校図書館リニューアル



より使いやすい学校図書館にするためにリニューアル作業を行った。多くの生徒ボランティアが参加し、読書スペースを広げるなど魅力ある学校図書館づくりを行った。

成果

○「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能の強化



- ・学校図書館を活用する機会の増加
国語科や社会科における学校図書館を活用した授業では、図書資料とインターネット上の情報をバランスよく活用できた。
- ・主体的・対話的な学びの推進
「全校ビブリオバトル」による、目的意識をもって、仲間とともに語り合う経験を重ねたことが、他の学習活動にも生かされた。
- ・居場所としての学校図書館
学校図書館が心地よい居場所、交流の場となっており、昼休みに利用する生徒が増えた。不登校傾向の生徒の学びの場ともなった。

○読書の状況

「読書をしていますか」という項目に対し、学習で学校図書館を活用する機会が多かった2年生において肯定的回答が12.5%上昇した。

	肯定的回答
令和5年7月	48.8%
令和6年1月	61.3%

(「生徒対象学校評価アンケート」より)

課題

- 学校図書館の整備・活用を推進するには、学校を指導する教育委員会学校図書館担当指導主事が、学校図書館の機能や司書教諭・学校司書の役割等について理解していないなければならない。
- しかし、指導主事は2、3年で異動することが多く、学校図書館に関して専門に学んできた人は少ないので、指導主事が学校図書館について認識する機会が必要である
- 学校においても学校図書館の整備・活用を推進すべき司書教諭の役割の重要性について、管理職・一般教員・ICT教育担当者等の認識が低い。

事業のねらい

- 指導主事自身も、司書教諭自身もそして学校現場の管理職・一般教員・学校司書・ICT担当教員・ICT支援員等、全ての学校関係者が学校図書館の機能を知り、司書教諭の役割の重要性を認識すること。
- 司書教諭の活動が促進されるように、教育委員会内の研修体制が確立され、実効性のある研修が実施されること。
- 研修の企画・実施に役立つ研修モデルプログラムを提供すること。

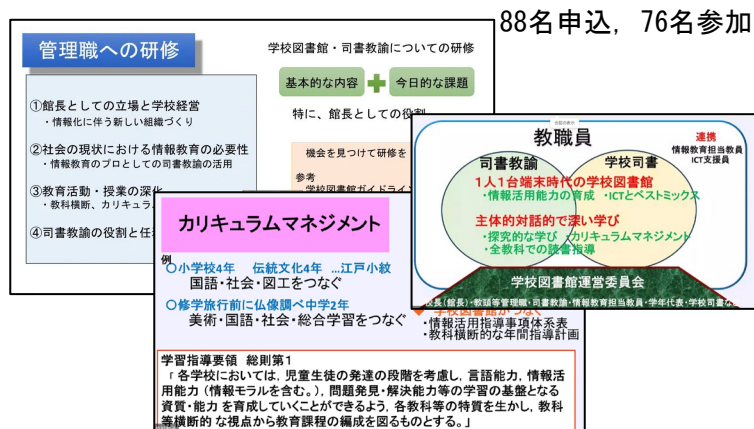
実施内容

①研修モデルプログラムの再検討

昨年度事業で作成した研修モデルプログラムを再検討して、司書教諭の活動の促進をすすめるべくプログラムを追加したり組み合わせたりして充実を図った。

②第7回指導主事研修会の開催(オンライン, 2023. 11. 23)

1. 今、もう一度司書教諭の存在意義を確認する
2. 司書教諭の活動促進のための研修を考える
3. グループディスカッション・報告



③パンフレットの作成と配付

『これからの司書教諭の活動と研修』

1. 司書教諭の役割を歴史的に振り返る
2. 司書教諭の存在意義・役割
3. 数字で見る司書教諭の活動と現状の課題
4. 教育委員会が司書教諭の活動を促進するための研修体制

(公社)全国学校図書館協議会Webサイトからダウンロード可

成果

- 指導主事研修会後のアンケートから、司書教諭の役割の認識が深まったことが明らかであった。
- 指導主事研修会後のアンケートから、指導主事同士の意見交換ができたことの意義が表明されていた。
- 指導主事研修会後のアンケートから、今後実施してみたい研修会テーマに、これまで実施した研修会では見られなかった、「管理者向け」や「一般教員向け」の研修や、「学校図書館担当者とICT担当者の連携」のテーマが見られた
- 一般参加者からも、この研修会で得られた情報を教育委員会へ伝える旨のコメントが寄せられた。



課題

○本県においては、平成25年度から学校司書の配置が進み、令和4年度は30市町村のうち26市町に合計80名が配置されている。しかし、1人で数校を巡回していることが多く、国が掲げる1.3校に1人という配置には至っていない。市町村においては、配置に向けて前向きに取り組んでいただいているが、人材の確保が困難であるということや山間部があるため、複数校をまわっていくのも大変だという現状がある。

○令和2年度「学校図書館の現状に関する調査」において、和歌山県の小学校における学校図書館図書標準の達成状況は57.6%、中学校45.7%であり、学校図書館における物的整備の状況は低く、蔵書整備状況としても、児童生徒等の読書環境の整備に資する多様な蔵書状況とは言い難い。さらに、刊行後時間の経過とともに最新の情報を記載していない古い図書が保有されている状況もあり、計画的に整備が進んでいないという現状にある。学校図書館ボランティア等の協力も得ながら、学校図書館の整備・充実に努めているところであるが課題は依然として残る。



事業のねらい

- 主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤としての役割を担う学校図書館の在り方や、学校司書の有用性等を県内に広く普及する。
- 学校司書に向けた研修を実施することで、資質・能力の向上を図るとともに、これから求められる学校図書館の在り方を共有し、学校図書館の環境整備と機能の強化を図る。



取組実施地域・学校の指定

推進校 (宮小学校)

令和2年度子供の読書活動優秀実践校

連携校

(三田小学校・太田小学校・宮北小学校)

実施内容

①企画運営委員会の実施



本調査研究の概要を周知するとともに、事業の取組を共有し、学校図書館や学校図書館資料を活用することが授業改善につながっていることを学び、関係職員等の意識の向上に繋げた。

②学校図書館機能を活用した授業づくり研修会の実施



学校図書館司書等を対象に、「情報センター」としての学校図書館の整備や児童生徒の情報活用能力の育成に係る学校図書館資料の効果的な活用等を学ぶことにより、学校司書等の資質・能力の向上を図り、学校図書館の環境整備と機能の強化を促進した。

③学校図書館機能を活用した研究授業・協議会の実施



宮小学校(推進校)において、「教員による学校図書館活用の充実のために」の実現に向け、司書教諭と学校司書との連携に重点を置き、研究授業・協議会を行い、モデルケースの検討を行った。

④先進地視察の実施



本年度取り組んできた内容と比較しながら、京都市の学校図書館、教員と学校司書の連携の様子等を視察することで、新たな気付きやモデルケースの共有を行うことができた。

成果

○学校図書館の取組の普及

より実践的な研修となるよう、学校図書館の更なる整備や機能強化に向けての重点ポイントを明確にするために、学校図書館評価表の項目の作成に取り組んだ。



学校図書館評価表の項目作成を通して、自校の学校図書館に必要なと考えられるものや環境整備について再認識した。

○学校図書館を活用した授業改善

学校司書の配置校数の増加や教員の意識改善等により、学校図書館を活用した授業を行おうとする教職員が増えてきている。

学校図書館を活用した授業の実施頻度

	令和4年度	令和5年度
週に1回程度	54.9%	60.8%
月に一回程度	33.3%	27.5%
学期に一回程度	9.1%	11.8%
年に一回程度	2.0%	0%
全く活用してない	0%	0%

学校図書館教育実施状況調査票(小学校)より

○課題

- ・参加者等の変化については、今後の追跡が必要である。
- ・本年度取組の普及は不十分であるため、汎用性の高いものに重点を置き普及していく必要がある。